

## 4月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

### 沖縄群島

#### 1 水稻

スクミリンゴガイの防除対策について

- a 移植後は水深をできるだけ浅水(水深1cm以下)で管理する。
- b 餌や産卵場所となる水路周辺の雑草を除去する。
- c 貝及び卵塊を地域ぐるみで捕殺し貝密度を下げる。

#### 2 さとうきび

##### (1)カンシャコバネナガカメムシ

予報の内容

発生程度: やや少

予報の根拠

3月の調査の結果、茎当たり虫数は0.7頭(前年0.5頭、平年1.7頭)と平年よりやや少なかった。

防除上注意すべき事項

- a 2～3月の気温に基き、3月28日時点で防除適期を予想すると表のとおりとなる。今後の気象の経過次第で多少変動することもある。
- b この時期に地域一斉防除することが望ましい。
- c 薬剤防除の際は、周辺住宅地に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月28日現在)

地域別	防除適期	2.5齡期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月19日～5月2日	4月26日	4月22日	4日遅い
南・北大東島	4月13日～4月27日	4月20日	4月19日	1日遅い

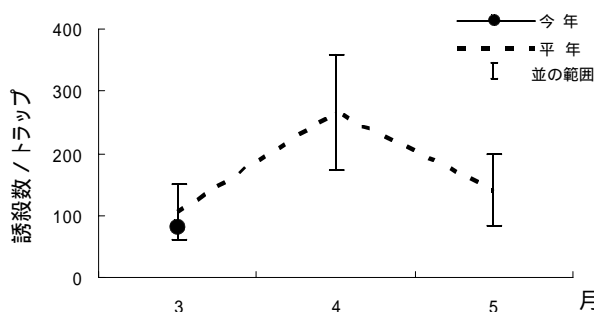
##### (2)オキナワカンシャクシコメツキ

予報の内容

発生程度: 並

予報の根拠

3月の性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は78.7頭(前年93.5頭、平年106頭)と平年並であった。



オキナワカンシャクシコメツキの誘殺数の推移

防除上注意すべき事項

- a 誘殺用トラップは風通しの良い所に設置し、生育中の圃場内には設置しない。
- b トラップ周辺の除草や水及び中性洗剤の補充等の管理を定期的に行う。
- c 更新圃場はすみやかに耕起し、残渣処理を実施する。

### 黒穂病の防除対策について

- a 4月以降徐々に発生が増加することが予想されるので、特に株出し圃場では今後の動向に注意し早めに抜き取り防除を行う。
- b 発病株は鞭状体の出現前に抜き取り焼却処分する。
- c 鞭状体の出現した茎は孢子の飛散を防ぐため、ビニール袋をかぶせ抜き取り処分する。
- d 培土など株だし処理を行い、肥培管理に努める。
- e 発病圃場や隣接圃場からは採苗し、抵抗性品種を植えるようにする。
- f 苗の薬剤浸漬処理を行う。

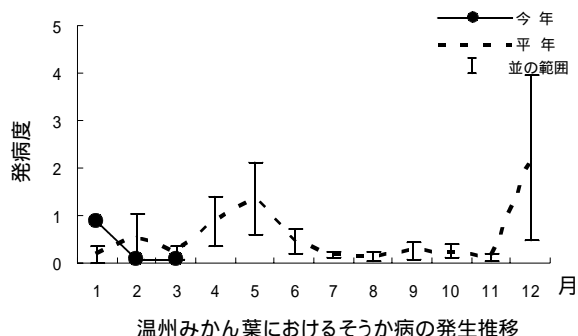
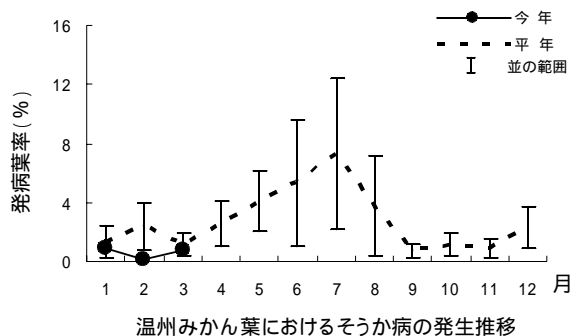
## 3 温州みかん

### (1) そうか病

発生程度：並

予報の根拠

3月下旬の調査の結果、発病葉率は0.8%と(前年8%、平年1.1%)平年並み、発病度も0.1(前年0.57、平年0.2)と平年並みであった。



### 防除上注意すべき事項

- a り病枝、葉は取り除き伝染源を極力少なくする。
- b 窒素過多にならないように施肥に注意する。

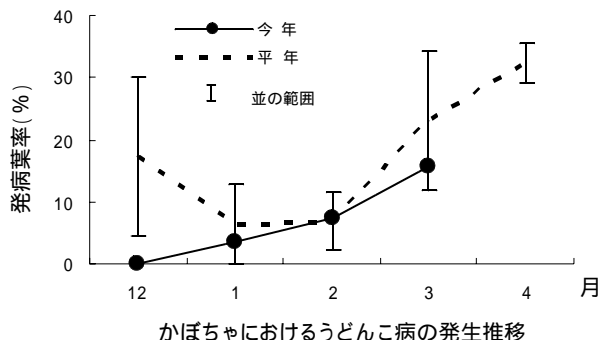
## 4 かぼちゃ

### (1) うどんこ病

発生程度：並

予報の根拠

3月中旬の調査の結果、発病葉率は15.8%(前年22%、平年23%)で平年並であった。



### 防除上注意すべき事項

- a 老葉や病葉を除去し透光通風を良くする。
- b 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- c 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

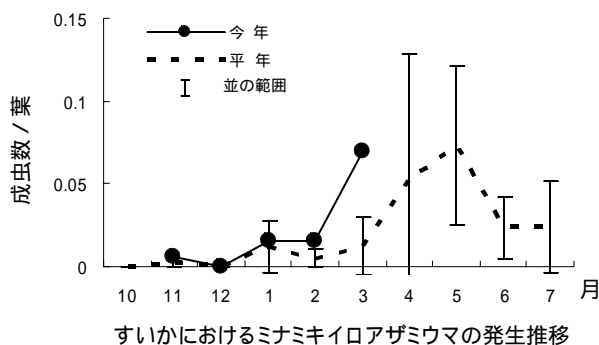
## 5 すいか(施設)

### (1) ミナミキイロアザミウマ

発生程度: 多

予報の根拠

- 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.07頭(前年0.11頭、平年0.01頭)と平年より多かった。
- 一部圃場で、本種が媒介するスイカ灰白色斑紋病の多発生が見られた。



#### 防除上注意すべき事項

- 裾や側窓からの蔓や葉の露出は、ミナミキイロアザミウマの施設内侵入を容易にするため、裾や側窓から蔓や葉が出ないように徹底する。
- 摘芯や摘葉後の残渣は、発生源となるので、施設内外に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして密閉処理し、完全に枯れてから処分する。
- 近紫外線除去フィルム、シルバーポリマルチの利用、および入口、天窗、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。
- 育苗及び定植時には残効性の長い粒剤を施用する。また薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一同系統薬剤は連用しない。

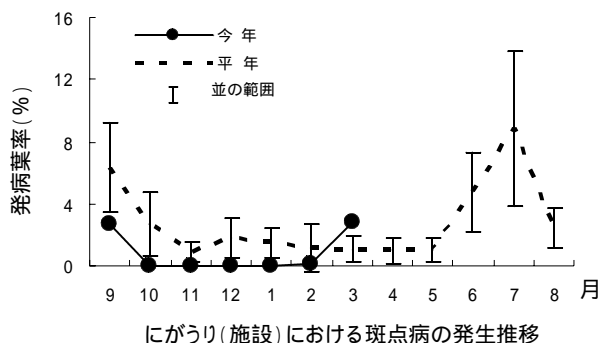
## 6 にがうり(施設)

### (1) 斑点病

発生程度: やや多

予報の根拠

3月中旬の調査の結果、発病葉率は2.8%(前年0%、平年1.1%)と平年よりやや高かった。



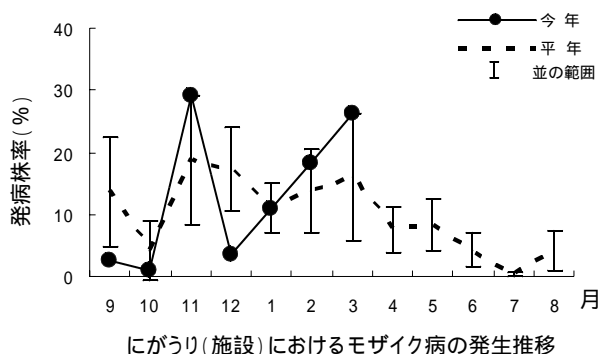
#### 防除上注意すべき事項

- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 老葉や病葉は発生源となるので、施設内外に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

## (2)モザイク病

発生程度： 並  
予報の根拠

- 3月中旬の調査の結果、発病株率は26.2%(前年2.14%、平年16.1%)と平年並みであった。
- 一部ほ場で発病株率が50%を超える多発生が見られた。



### 防除上注意すべき事項

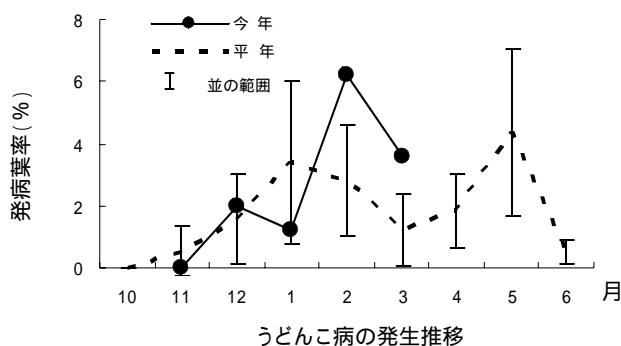
- ほ場周辺の雑草は媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。
- 近紫外線除去フィルム、シルバーポリマルチの利用、および入口、天窓、側窓にはシルバー寒冷紗等を張りアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- 発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので発病株のある棟の収穫管理作業は最後に行い、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

## 7 ピーマン

### (1)うどんこ病

発生程度： やや多  
予報の根拠

3月中旬の調査の結果、発病葉率は3.6%(前年1.4%、平年1.27%)と平年よりやや多かった。



### 防除上注意すべき事項

- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 老葉や病葉は発生源となるので、施設内外に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める。

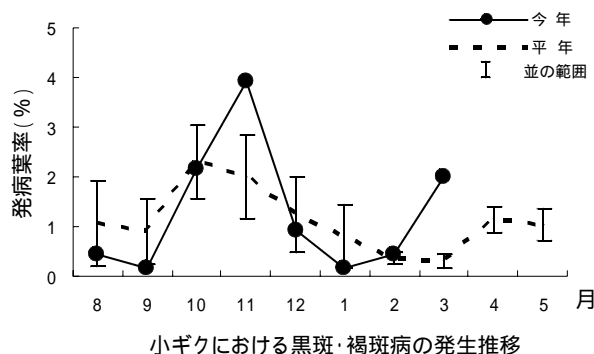
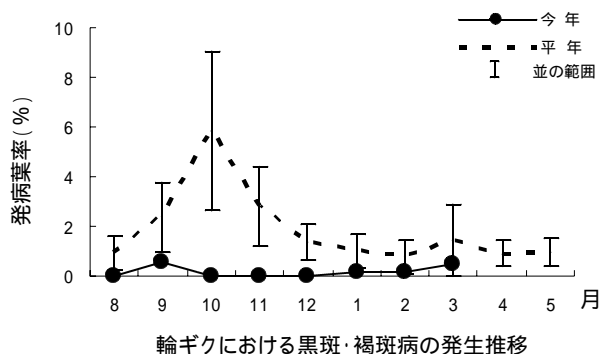
## 8 キク(輪ギク、小ギク)

### (1) 黒斑・褐斑病

発生程度: 並(輪ギク)、多(小ギク)

予報の根拠

3月の調査の結果、発病葉率は輪ギクで0.51%(前年0.94%、平年1.46%)と平年並、小ギクで2.02%(前年0.08%、平年0.31%)と平年より高かった。



#### 防除上注意すべき事項

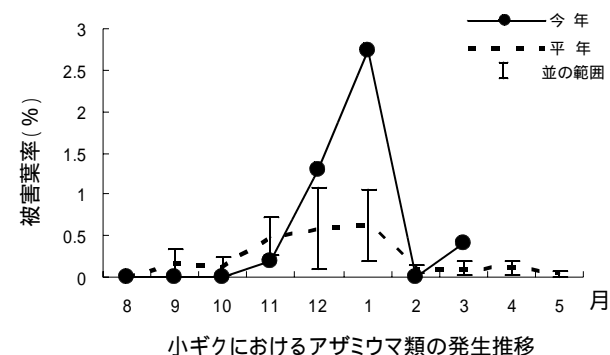
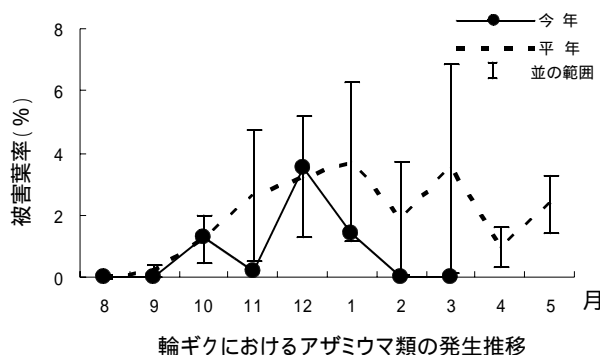
- 発病初期の防除を徹底する。
- 発病葉は除去し、通風、採光、排水に努める。

### (2) アザミウマ類

発生程度: やや少(輪ギク)、多(小ギク)

予報の根拠

3月の調査の結果、被害葉率は輪ギクで0%(前年0%、平年3.50%)と平年よりやや少なく、小ギクで0.40%(前年0%、平年0.10%)と平年より高かった。



#### 防除上注意すべき事項

- 多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。
- 同一・同系統の薬剤を使用すると薬剤抵抗性が発達しやすいので連用を避ける。
- 圃場内及び周囲の雑草は発生源になるので除去する。